

令和5年度 阿賀野市男女共同参画プラン推進協議会 議事要旨

1 会議の概要

日 時：令和6年2月20日（火）午後2：00～3：30

場 所：安田交流センター 3階 大会議室

出席者：【委員】井上会長、藤田副会長、渡辺委員、樋口委員、酒井委員、星野委員、
石川委員、上松委員、佐藤委員、早川委員

【市】事務局：企画財政課（西潟課長、長峰係長、富岡主事、天野主事）

2 議事概要

- (1) 副会長の選出について
- (2) 会議公開の取扱いについて
- (3) 阿賀野市男女共同参画プランについて
- (4) 令和5年度女性財団共催セミナーの開催について
- (5) 新潟県女性のつながりサポート事業について
- (6) 生理の貧困対策事業について
- (7) 男女共同参画に関する意識調査の結果について
- (8) 令和6年度事業について
- (9) 次期男女共同参画プラン推進協議会委員の選任について

3 発言の内容（主な意見等（○：委員 ●：市））

- (1) 副会長の選出について
藤田委員を副会長とすることを決定
- (2) 会議公開の取扱いについて
→今年度における会議公開の取り扱いについて事務局より説明
- (3) 阿賀野市男女共同参画プランについて
 - 男性の育児休暇は会社でも色々と進めているが、なかなか取得できていないのが現状。介護は体力や力の問題などがあり、休暇を取得する方はいる。
 - 今年度、市内の学校で男性教員が育休を取得し、徐々に広がりつつあると感じるが、代わりの先生を見つけることが難しく、それが育休取得をためらう一因になっているかもしれない。
 - 昨年、当社で初めて育休を取得した男性職員がいた。その職員は営業職の中でトップセールスでありながら育休を1年間取得するというので、社内でかなり衝撃が走ったが、今の子育て世代は夫婦で子育てをする感覚が非常に強く、子育てにかかる休みの意識が高いと感じている。

○育児に父親が加わることは女性が安心して生きていくためにとても大切なことであり、子どもにも大きな影響を与えると思うので、昔では考えられなかったことだが、仕事が許す限り推奨してあげて欲しい。

○資料にも記載があるが、人権擁護関係にデートDVという言葉がある。デートDVとは交際相手から大声で怒鳴られたり、無理矢理スマホをチェックされたりとデート中に行われるDVのことであり、新潟ではまだ馴染みがないが、都会では結構行われている。小学生にはまだ早いかもしれないが、県内の中学校ではデートDVが起きかけているという話があり、学校にパンフレットを置くなど啓発活動をしたいと考えているが、どこの学校でもまだ早いという感覚で協議がされていない状況にある。柏崎の高校では、デートDVについての模擬演技を行い、生徒に啓発をしているところもある。一般の方にはあまり知られていないが、デートDVがあるということを若い頃から知っておいてほしい。

●若い頃からデートDVがあるということを知ること、自身がやっていることや受けていることがデートDVではないかと気づくことができる。コロナ禍で学校訪問ができず、また職員の数にも限りがあり啓発活動ができていない状態が続いているが、頃合いを見て、適切な世代に対して普及啓発ができるよう、共に活動させていただければと思う。(企画財政課長)

(4) 令和5年度女性財団共催セミナーの開催について

○セミナーのテーマは今話題の男性の育休取得であり、平日開催であったことから参加者が少なかったのかもしれない。セミナーの主な対象が企業の人事担当向けということであるが、実際に育休を取得することが多い20・30代が参加できるような工夫などがあれば良かったのかもしれない。

○今は共働き夫婦が多いため、平日午後の開催だと参加が難しく、とはいえ夜開催では家事や子どもの習い事の送り迎えなどがあり参加が難しい。PTAの講演会でも決まった人しか参加せず、どうすれば人が集まるか考えているが、なかなか思うようにいかないのが現状である。

○私は今回のセミナーに参加し、企業にとって非常に良い講演であったと感じた。セミナーの内容で、産後うつになる母親が10人1人であり、それもコロナ禍において増えたこと、産後の母親の死因の原因の多くが自殺であることに衝撃を受けた。このようなセミナーで話を聞いて初めて分かることが多くあるので、多方面にアンテナを張り周知して欲しい。

○学校であれば研修の一環として担当者がセミナーに参加できると思うが、企業であると仕事に参加することは難しいのかもしれない。しかし、企業にとって欠かせないテーマのセミナーは、研修などの一環で参加できるようになると良いと感じる。セミナーの内容と参加してもらいたいターゲットをリンクさせて周知していくことが必要ではないか。

●企業の方が研修の一環として参加できるのではないかと考え、開催時間を14時半から16時に設定したが、実際に育休を取得する方が多い20・30代に向けた広報が弱かったかも

しれない。今後セミナーを開催する際は、今回あった意見を参考に周知していきたい。
(企画財政課主事)

(5) 新潟県女性のつながりサポート事業について

○昨年からおうちご飯プロジェクトで生理用品と一緒に配布するようになり、配布された方からは、食べ物だけでなく生理用品や他の雑貨類等が入っており、大変ありがたかったという意見があり喜ばれている。

○ひとり親家庭 218 世帯のうち約半数の 95 世帯がおうちご飯プロジェクトに申し込みをしており、ひとり親家庭が必要としていることがよく分かる。パンフレットも一緒に配布しているとのことで、困ったときの相談先が分かるものが手元にあることは心強い。長くこの取り組みを続けて欲しい。

(6) 生理の貧困対策事業について

○昨年度、学校に生理用品が配布されトイレに設置したが、経済的に貧困の子どもが対象であることをアナウンスすることが難しかった。小学生では自身の状況がわからない場合があり、中学生以上であると自分から必要があるということを言いにくいのではないかと。また、生理用品を利用した子どもたちが貧困のためなのか、たまたま手持ちがなく利用したかというところは学校でも把握が難しいので、まずは誰でも使っていいよという形で、少しずつ子どもたちが趣旨を理解してくれればいいというスタンスで実施していた。生理用品の設置場所を公共施設や役場をメインにして、生理の貧困対策をアピールした方が趣旨に沿う活用ができるのではないかと学校内で話をしていた。

○今年度も配布しているが利用はあったか

●貧困による理由で利用されているとは限らないが、利用はされている。また、小学校で準要保護世帯の保護者の方から、子どもが保健室へ生理用品を取りに行きづらいと話していると先生の方に電話があり、後日保護者の方が取りに来たということがあった。市役所の窓口の方では、企画財政課と学校教育課に 1 世帯ずつ取りにこられた世帯はいるが、その後、取りに来たという報告はない。(企画財政課主事)

○当校では子どもたちが突然生理になることがあるため、学校の女子トイレに生理用品を置くことを続けている。子どもたちが生理用品を使えることはいいきっかけになる。女の子は普段から携帯しておくことが大切なので、親としても教えていかなければいけないと思う。

(7) 男女共同参画に関する意識調査の結果について

○市役所職員を対象に職員意識調査を実施しているが、市役所だけでなく業種別で傾向が分かるとより参考になると思う。

○育児と介護に関しての意識が高まっており、今後さらに高まることを期待したい。

○育児休暇や介護休暇の取得は、仕事の業種によって大きく差がでてくると感じる。世間の意識は報道などの影響もあり変わりつつあると思うが、この意識調査結果をもとに企業が何か実行していかなければ何も進まないのではないか。

○調査して終わりではなく、でてきた課題にアクセスしていくことが大切であると思う。

○夫婦間の子育てについていえば、私の家の場合は主人が働き、もし子どもに熱が出れば私が仕事を休むといった昭和系の夫婦の形だが、職場の若い人の話を聞くと、残業が週5日あるうち、旦那が2日、奥さんが3日、翌週は奥さんが2日、旦那が3日というような残業のとり方まで話し合っているとのことであった。家庭によるとは思うが、2人の目指す価値観や生活の実現のため、お互い話し合い、擦り合わせる事ができるのがこれからの世代ではないか。

○市民意識調査の回収率が15.8%であり、もっと市民の意見があれば良かったと感じる。自由記述にある市民の方の意見はとても参考になるので、この市民の声をもとに市でも取組を進めてくれればと思う。

(8) 令和6年度事業について

→令和6年度に予定している事業について事務局より説明

(9) 次期男女共同参画プラン推進協議会委員の選任について

→次期委員の推薦依頼及び公募委員の募集について事務局より説明

(10) その他

○今までお世話になった方を家族皆でお世話することは昔からの大切なことであるが、核家族が増えてきたこともあり、最近はそれがなくなってきた。ありがとうという気持ちを子どもたちに見て欲しいし、或いは体験して欲しいと感じる。

○世の中の状況は大きく変わってきており、企業にとっては4月からの働き方改で非常に難問があり、教育の分野をはじめどの分野においても人権を大切にするという方向性がさらに進み、働きやすさや働きにくさを感じると思う。しかし、男女が共同しながら世の中を生きていくために「男だから女だから」ではなく、1人の人間としてどうなのかという視点に立ち、私たちが生活していくことが大切であると今回の協議会で実感した。委員の皆さんにはこれからも現状を把握してもらい、この場で様々な意見を聞かせていただければと思う。